

会長賞	受賞者名
	株式会社鴻池組 座間 (H25) 宿舎新設建築その他工事 (2 工区)
	所在地 神奈川県座間市
	受賞テーマ 建築副産物の 3R・ゼロエミッション活動と自然エネルギーの有効活用

受賞者は、建設工事において、以下の環境対策や省資源対策を行った。

1、基本方針

現場をリサイクルモデル現場と位置付け組織体制を確立する。
実行、持続可能な目標を掲げそれを全職員、全協力会社に周知し徹底して推進する環境を整える。

2、活動内容

現場では以下の活動を行った。

①ゼロエミッション活動において、現場代理人(所長)を”ゼロエミ推進責任者”、職員から”ゼロエミ推進リーダー”、職長から”エコマスター”任命し、定期的にゼロエミッション推進会議を開催する。
会議では、作業員への教育・指導を行って徹底したリサイクルの改革を行う。
また、新規入場者教育、安全衛生協議会、安全大会等においても教育を行い、定期的にも教育をすることによってリサイクルへの意識を持続させる。

②建設副産物を 16 品目に分別収集(リサイクル)【写真 1】、オープンドラム方式による発砲スチロールの減量化(リサイクル)【写真 2】コンクリート誘導剤(リデュース)【写真 3】と残コン処理剤(リユース)【写真 4】による残コンの減量化を行った。



【写真 1】
16 品目へ分別することにより、リサイクル率を高め、混合廃棄物の排出量を大幅に減らすことができた。



【写真 2】
オープンドラム方式により断熱材等で使用される発砲スチロールやスタイロフォームの切れ端として発生する産廃を再生分離させ、プラスチック製品の原料として再利用し、産廃とする量を減らすことができた。



【写真 3】
通常コンクリートポンプ車でコンクリートを打設する際、ホース内を滑り易くする為に先送りモルタルを 0.5 m³使用し、残コンとなってしまう。しかし、コンクリート誘導剤を使用することによって先送りモルタルを使用するより約 7 割も残コンを削減することができた。



【写真 4】
通常コンクリートを打設後、コンクリートポンプ車には必ず約 0.3 m³程度の残コンが産廃として残ってしまう。しかし、残コン処理剤を使用することによって打設後にコンクリートポンプ車に残った残コンを再生骨材として再利用できた。